

2018 年 11 月幹事会

2018.11.16

伊藤・安永

## 2018 年 11 月幹事会 セミナー幹事資料

### 【議題 6】2019 年度 第 23 回夏セミナーについて

#### セミナーの基本構成

ラウンドテーブルディスカッション（3テーマ）+特別講演 +会長講演

#### ラウンドテーブルディスカッション（RTD）のテーマ案

##### 1. バイオマーカー

提案理由：実際の活用例を聞くことが少ないが、実用化されればメリットが大きい。

組織委員（案）：斎藤 嘉朗先生、濱田 哲暢先生、楠原 洋之先生

講演者候補：未定

##### 2. ヒト予測

提案理由：アンケートでの要望が多かった。過去に同じようなテーマで開催しているが、定期的にトピックとして取り上げるのも面白いのでは？

組織委員（案）：樋坂 章博先生、前田 和哉先生、成富 洋一先生、  
千葉 康司先生、小村 弘先生

講演者候補：未定

##### 3. 代謝物

提案理由：各社の代謝物の取り扱いの方針など、社内事情の共有化。

組織委員（案）：渡邊 伸明先生、金津 卓史先生、中川 俊人先生、  
小林 カオル先生

講演者候補：未定

（バックアップテーマ）ニューモダリティー

＊RTDについては幹事会にて承認後、各テーマについて組織委員会を設置し、内容および講演者についての検討を開始する。

＊次回1月幹事会にてプログラム案を提案予定

・特別講演の演者：未定

・会長講演：未定

## 過去のテーマ

	セッション1	セッション2	セッション3
2014 年	新薬開発に関わるnon-CYP 薬物代謝酵素とその評価法 吉成浩一先生 久米俊行先生	製薬企業におけるヒト薬物動態予測研究 田端健司先生 前田和哉先生	代謝物の安全性評価に向けた薬物動態研究の取り組み 倉橋良一先生 内藤真策先生
2015 年	イメージング技術を駆使した創薬動態研究の実践 平林英樹先生 内藤真策先生	M&S は創薬のプースターになるか？ 前田和哉先生 倉橋良一先生	薬剤性肝障害を回避するために企業研究者ができること 神野敬将先生 久米俊行先生
2016 年	創薬における薬物相互作用 との上手な付き合い方 前田和哉先生 内藤真策先生	バイオマーカー研究の実際と測定法バリデーション 香取典子先生 栗原隆先生	新規医薬品の初期製剤開発とその評価 山下伸二先生 久米俊行先生
2017 年	PK/PD-QSP モデルを活用した医薬品の探索・開発の考え方 樋坂章博先生 奥平典子先生	個別化医療における薬物動態研究の役割 楠原洋之先生 内藤真策先生	抗体医薬品開発における薬物動態研究の貢献 寺尾公男先生 栗原隆先生
2018年	First in Human studyにおける動態及び毒性からのアプローチ 澁澤幸一先生 栗原隆先生	薬物相互作用評価のフロンティアライン ～定石をこえる次の一手とは？～ 前田和哉先生 岩坪隆史先生	非経口投与剤のDDS技術と薬物動態評価 尾上誠良先生 森脇俊哉先生